



【 A君の言葉：「教えて！」「ありがとう！」 】

○ 今日、朝校庭で立っていると、1年生のA君が、「校長先生、逆上がりのコツを教えてください。」と話しかけてきました。たしか、A君は以前にも、同じような質問をしてきたと思います。1年生の体育では、かなり前に「鉄棒」の学習をしていた記憶があります。何か月も立って、同じ質問をするということは、**逆上がりに対する意識が高く**、なんとしてもできるようになりたいという**強い意志**の表れだと感じました。



○ 私は、「左脚で思い切り地面を蹴ればいいよ。」「右脚を思い切り上に振り上げるといいよ。」「100回練習すれば、できるようになるよ。」などと言いました。すると、A君は「え、100回！」とつぶやいた後、「ありがとう。」と言って、玄関に向かいました。**向上心**に加えて、このA君の**礼儀正しさ**。私は、A君から素晴らしいことを学びました。絶対に逆上がりができるようになるA君だと思います。

【 「100回」という数字 】

○ 私が「100回」という数字をとっさに出したのは、教職2年目の頃、向山洋一先生が「教育技術の法則化運動」として、多く出版された書物を読んだ記憶が、思い浮かんだからです。「教育技術の法則化運動」の最も有名だったのが、「学級の子供全員が跳び箱を跳ぶ」ために、ある指導法を取り入れると、実現するというものでした。私も実際にやってみて、自分の学級の子供全員が開脚跳びができたという経験をしました。



○ それと関係して、「**物事ができるようにためには、100回取り組む必要がある**。」ということが強調されていました。何十回やってできなくても、**80回くらいからできるようになる**という趣旨です。当時、私は的を得ていると感じたものです。この「100回」という数字を、私自身忘れず、今後も物事に挑戦してみたいものです。

○ それと関係して、「**物事ができるようにためには、100回取り組む必要がある**。」ということが強調されていました。何十回やってできなくても、**80回くらいからできるようになる**という趣旨です。当時、私は的を得ていると感じたものです。この「100回」という数字を、私自身忘れず、今後も物事に挑戦してみたいものです。